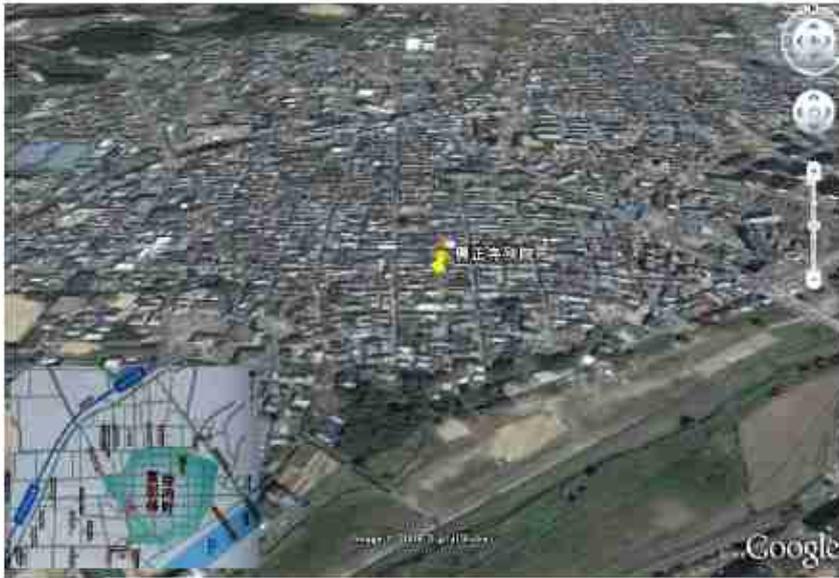


【写真アルバム】

11. 江戸時代にタイムスリップしたかのような町並み その輪郭が浮かぶ「寺内町 富田林」

2009.8.15. by Mutsu Nakanishi



江戸時代の町並みがそっくりそのまま残る 富田林市の中心「寺内町 富田林」 うっすら環状の輪郭が見える

「富田林」大阪府の東南部 雄大な金剛・葛城連峰を背景に市の中央を南から北に大和川に合流する石川が流れる緑豊かな丘陵と美しい田園風景が広がり、古くからまちが開けたところで、夏の夜空を豪華なPL教団の花火が彩ることで有名な街である。

この富田林の街の中心部には まるで江戸時代にタイムスリップしたかのような歴史的に貴重な町並み「寺内町 富田林」が残されている。



「寺内町」とは 周囲を土塁で取り囲み、あたかも寺の境内の中にそっくり町がつくられ、町人が僧侶と一緒に暮らしていた宗教自治都市。

ヨーロッパには城壁に囲まれた古い都市がいたるところにあります、日本にもそんな痕跡を残す街並みが富田林の中心地にあり、そこに住むひとたちが、生活しながら守っている。

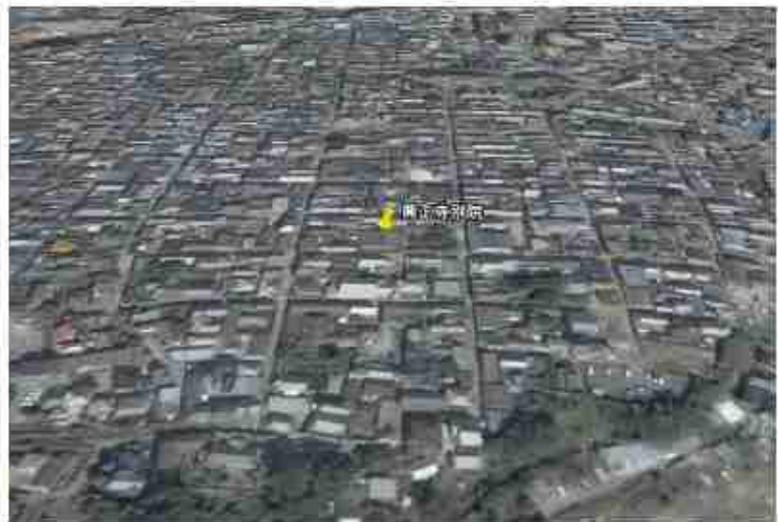
近くに居ながら通過することはあっても、一度も訪ねたことはなく、一度是非訪ねたい街。

8月15日 富田林に隣接する北東部の丘陵地にある近つ飛鳥博物館で開催されていた「発掘された日本列島展 2009」を見に行った帰りに訪ねました。

本当に家並みばかりでなく、街の中心地の中に 環状の面として 町割がそっくりそのまま残っているのだろうか…

概観はともかく、観光地化して 観光客相手の土産物店街になっているのではないかと…

などといささか懐疑的に訪れたのですが、さにあらず。



「寺内町 富田林」は「富田林市富田林町」の所在地名が示すとおり、富田林市の中心地なのですが、町に進出する大型店やビルで街並みの一角が壊されることもなく、区画整理の広い道路も作られず、みやげ物屋があるわけではなし。そこに住む人たちによって生活空間として しっかり町全体が維持されているのにビックリでした。本当に色々制約も多いのだろうと思いつつ帰ってきました。

帰って google earth で 寺内町のあたりを覗くと 石川の川岸 富田林の家並みの中に 整然と基盤の目に区割りされた街並み全体がぼんやり環状に浮かんで昔の寺内町の痕跡が見えました。

日本にもすっかり ヨーロッパ並みの自治都市の痕跡を町全体に残す町があること初めて知りました。

「これは・・・」といった建造物があるわけではありませんが、ゆったりとした気分で巡るには本当にいい街
おすすめの「寺内町 富田林」です

そんな寺内町 富田林 Walk のスナップを写真アルバムにしました。



■ 寺内町 富田林 概要



「寺内町 富田林」は石川西側の河岸段丘上に室町時代末に開かれた興正寺別院を中心とする寺内町。

本願寺一家衆の京都興正寺第 16 世の証秀上人が南河内一帯を支配していた守護代の美作守安見直政から富田の「荒之地」を銭百貫文で購入し、興正寺別院の御堂を建立。この興正寺別院を中心として、上人の指導のもと近隣 4 か村の庄屋株が中心となって、町内を南北六筋、東西七町に整然と区画し、周囲には土居をめぐる宗教都市を作り上げた。町全体を仏法の及ぶ空間、寺院の境内と見なして信者らが生活をともにする宗教自治都市「寺内町」を誕生させた。

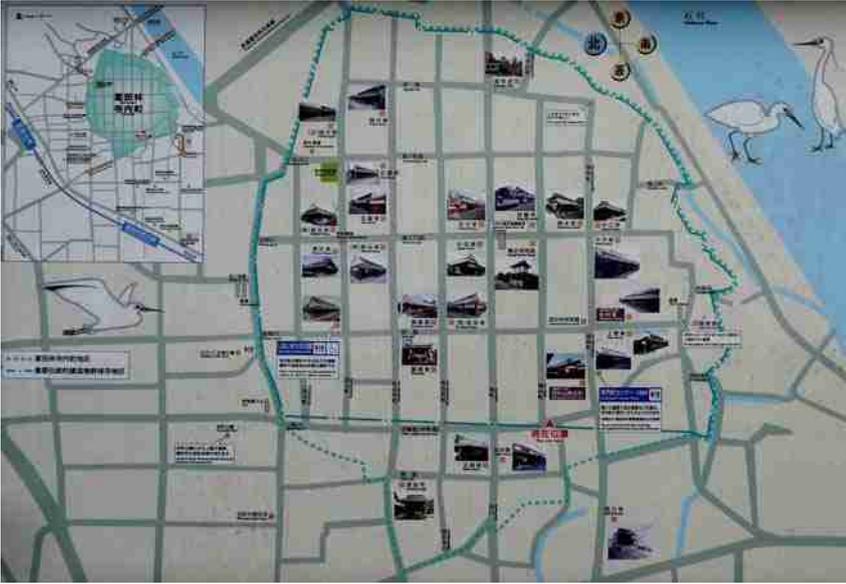
江戸時代以降になると周辺地域の物資の集積や河内主酒造業の中心地として発展し、街路沿いには入母屋造又は切妻造で平入・本瓦葺の大規模な町家が軒を連ねた。現在もほぼ寺内町の町割りをとどめ、街路に沿って江戸時代以降の大規模な町家が軒を連ねて歴史的な街並み景観を伝えている。



【写真アルバム】 江戸時代にタイムスリップしたかのような町並み その輪廓が浮かぶ「寺内町 富田林」

TONDABAYASHI JINAIMACHI

富田林寺内町



富田林 寺内町について

富田林寺内町は、永禄(1558-69)初年頃、興正寺の門跡蓮秀上人が、富田の荒地を畿百貫文で取得し、近くの4ヶ村の庄屋株各2人、計8人に興正寺別院の建立と燭屋敷、町割などの建設を要請したのがはじまりとされています。町内は南北6筋、東西7町の道路で整然と区画、下水路を完備、周囲には竹藪のある土居をめぐるし、外部からの出入りは一里山口、山中田坂、向田坂、西口の4ヶ所に限られていました。早くから自治的都市特権を得て、町政の運営には年寄役となった8人があたりました。ここは東高野街道、富田林街道などが交わる交通の要衝であり、石川流域で収穫される米、綿、菜種などの農作物と良質の水にめぐまれたことから、近世以降南河内一の商業地として発展しました。酒造をはじめ、米屋、布屋、紺屋、鍛冶屋、樽屋、桶屋、油屋、大工など多くの商人・職人のいたことが記録に残されています。今も寺内町には住時を忍ばせる17世紀中頃から明治にかけての町家が多く、旧杉山家、神村家など個々に文化財としての価値の高いものがあるとともに、町そのものが日本のすぐれた文化遺産として平成9年10月、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。



寺内町の中心 興正寺別院 2009.8.15.





寺内町 富田林の案内板 & 壁板に「富田林町」の名が見える所在地標識



Image © 2009 DigitalGlobe







街中の辻にある東高野街道筋の道標 2009.8.15.



寺内町への北の入口にある地藏



寺内町は段丘のうえにあるので、坂を上って街に入る





寺内町 富田林の案内板 & 壁板に「富田林町」の名が見える所在地標識



